

Cisco Cyber Visionにおけるセンサー更新方法の理解

内容

[はじめに](#)

[背景説明](#)

[自己更新](#)

[拡張機能の更新](#)

[トラブルシューティングのヒント](#)

はじめに

このドキュメントでは、自己更新方式および拡張更新方式を使用してCisco Cyber Visionセンサーを更新する方法と、導入およびトラブルシューティングのガイダンスについて説明します。

背景説明

Cisco Cyber Visionには、センサーをアップデートするための主要なメカニズムとして、Self UpdateとExtension Updateの2つが用意されています。リリース4.4.0で導入された機能拡張により、自己更新機能を幅広く使用できるようになり、ユーザは展開方法に関係なくすべてのセンサーを更新できます。

自己更新

- 更新メカニズム：

アップデートは、ポート5671（センサーセンターの通信に使用されるポートと同じ）を使用して、RabbitMQ(RMQ)トンネル経由で実行されます。

- サポートされる展開：
 - すべてのセンサー導入方法（拡張機能、Web、またはCLI）
 - リリース4.4.0では、センサーの設置方法に関係なく、すべてのセンサーで自己更新基盤を使用できます
 - リリース4.4.1以降：すべてのセンサーは、自己更新機能を使用して自動的に更新できます。

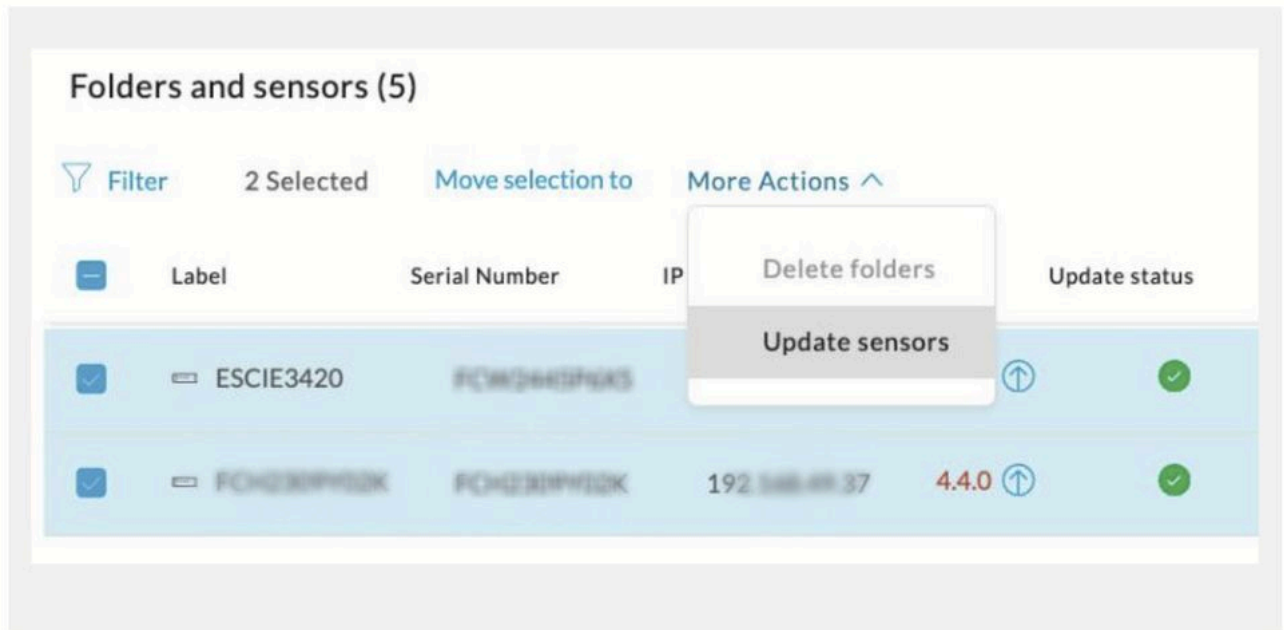
- 更新スコープ：

センサーコンテナ内の特定のバイナリファイルのみが更新され、コンテナ全体は置換されません。

• 自動更新プロセス (4.4.1から):

- Centerインターフェイスで更新するセンサーを選択します
- センターは、センサーのジョブキューに新しい更新ジョブを追加します
- センサーは、更新ファイルを自動的に収集して検証します
- センサーサービスが、新しいバージョンが適用された状態で再起動します

センサーを更新するには、Center Sensor Explorer GUIでMore Actions > Update Sensorsに移動します。



注：自己更新後、Center GUI(Sensor Explorer)に表示されるセンサーのバージョンには新しく更新されたリリースが反映され、IOx Local Managerには以前のバージョンが引き続き表示されます (次の図を参照)。

これは、自己更新方式では、IOxコンテナ全体をアップグレードするのではなく、標準のセンサー間接続を介してパッケージをダウンロードすることで、内部センサーサービスのみが更新されるためです。

Sensor Explorer

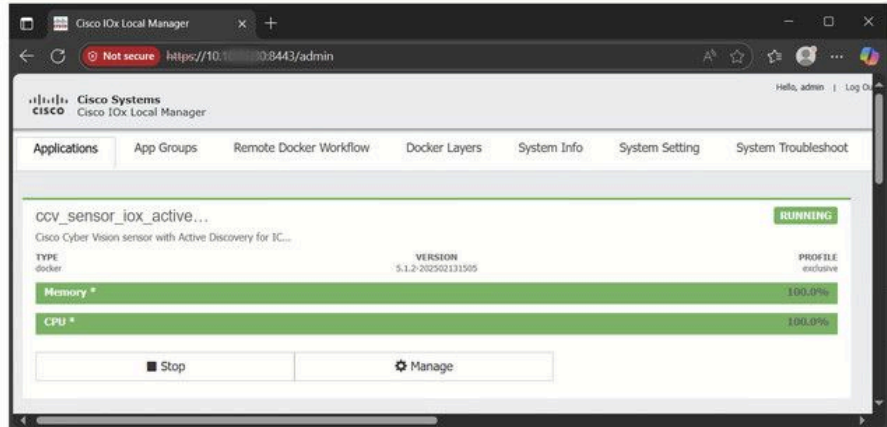
From this page, you can explore and manage sensors and sensors folders.

[+ New sensor](#) [Manage Cisco devices](#) [Organize](#)

Folders and sensors (103)

[Filter](#) 0 Selected [Move selection to](#) [More Actions](#)

<input type="checkbox"/>	Label	Serial Number	IP Address	Version	Update status	Location	Health status	Processing status
<input type="checkbox"/>	AltoCotoPP-CIC01	FC10002402M	10.10.10.1	5.3.0	●		Connected	Normally processing



AltoCotoPP-CIC01 ✕

Label: AltoCotoPP-CIC01 [✎](#)
Serial Number: FC10002402M
IP address: 10.10.10.1
Version: 5.3.0-202508121659
System date: Sep 12, 2025 4:56:23 PM
Deployment: Sensor Management Extension
Active Discovery: Enabled
Capture mode: Optimal
Template: Default [✎](#)

System Health
Status: Connected
Processing status: Normally processing
Uptime: 1 day

[Go to statistics](#)

[Start Recording](#)

[Move to](#)

[Capture mode](#) [Redeploy](#)

[Enable IDS](#) [Uninstall](#)

[Active Discovery](#)

[Update](#)

- ジョブ処理 :

- アップデートはセンターによってバッチで管理されます
- 1つのセンサーで更新が失敗すると、他のセンサーのジョブが続行されます

- トラブルシューティングの制限 :

診断ファイルとセンサーログの収集が遅すぎると、関連情報が欠落することがよくあります。

拡張機能の更新

- 更新メカニズム :

アップデートは、プラットフォームとセンター間のポート443でHTTPS接続を使用して実行されます。

- サポートされる展開:

拡張方式で配備されたセンサーでのみ使用できます。

- 更新スコープ :

更新中にセンサーコンテナ全体が置き換えられます。

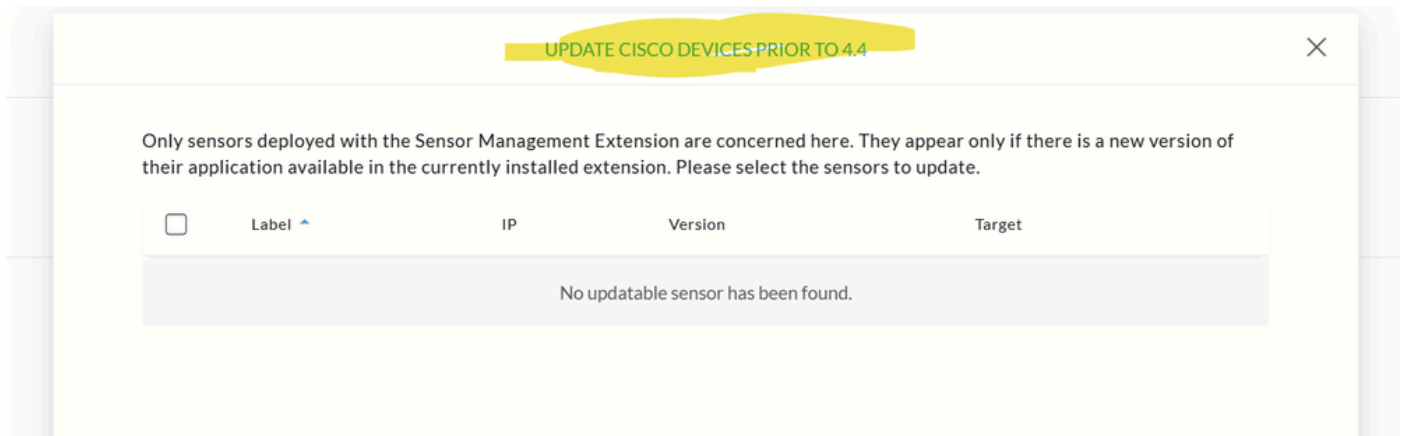
拡張子が付いたすべてのセンサーを更新するには、Admin > Sensors > Sensor Explorer > Manage Cisco Devices > Update Cisco Devicesの順に移動するか、センサーの右側のパネルにあるredeployボタンを使用します。

完全な手順については、バージョン4.2.0以降のセンサーのインストールガイドを使用してください。

い。



注：リリース5.2.1以降、Cisco Cyber Visionでは、4.4以降のバージョンを実行するセンサーの拡張方式によるデバイスのアップデートはサポートしていません。



- トラブルシューティングガイドンス：
 - プラットフォームIP (センサーIPではない) でパケットキャプチャフィルタリングを使用する
 - ログのセンター診断ファイルの確認

トラブルシューティングのヒント

- 自己更新の場合は、障害が発生した直後に診断ファイルとセンサーログを収集して、効果的なトラブルシューティングを行います。
- 拡張機能の更新については、プラットフォームとセンターの間のHTTPSトラフィックを分析し、センターの診断ログを使用します。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。